

通学路における安全・安心な環境の実現と交通の隘路の解消による地域経済の活性化

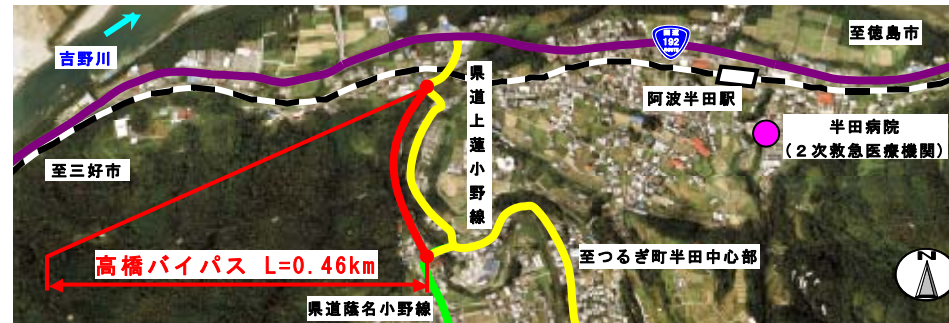
- ・通学路の安全性の確保
- ・2次救急医療施設や観光施設へのアクセス性の向上
- ・沿道環境の改善



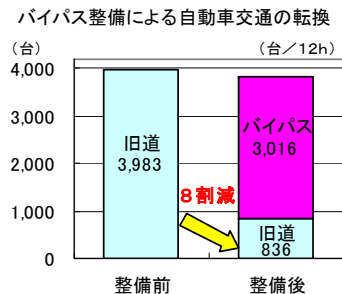
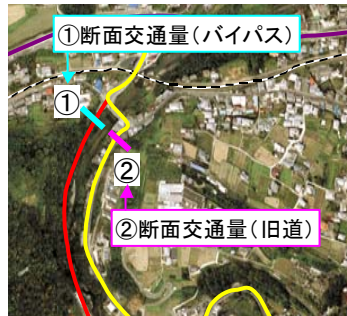
◎概要

一般県道上蓮小野線は、つるぎ町半田の中心部から一般国道192号へ通じる唯一の県道であるとともに、徳島県西部圏域の2市2町が連携し、四国で最初に観光圏整備法による認定を受けた「にし阿波観光圏」の豊かな自然を満喫できる観光地へのアクセス道路として、地域の社会・経済活動に欠くことのできない道路であるが、幅員狭小で線形不良なうえ、民家や商店が連担するなど、交通の隘路となっている。

このうち、今回の事業区間は、道路の両側に人家が連担し視距が悪く、局部的には待避所として利用可能な幅員が確保されているものの、4m程度の狭小区間があり、通学時等における通行危険箇所を含むことから「交通の隘路」となっていた。



◎バイパス道路への自動車交通の転換



- ◇地域の住民の方に意見を伺いました
- 旧道の交通量が減ったので、道路の横断が容易になったり静かになるなど、沿道の環境が改善された。
 - バイパス道路の整備により定時性の確保が図られ、緊急車両の運用上において時間短縮等の効率化が図られる。

◎安全性の向上



旧道(バイパス開通前)



バイパス開通後

- ◇地域の住民の方に意見を伺いました
- 旧道は、通勤時間帯に多くの車が行き交い交通事故等の発生が危惧されていたが、高橋バイパスの開通により通行車両の分散が図られたことから危険性が緩和された。
 - 旧道の交通量が減ったので、子供の通学時に安心できるようになった。
 - バイパス道路において、自転車の通行がしやすくなった。